



生誕 100 年

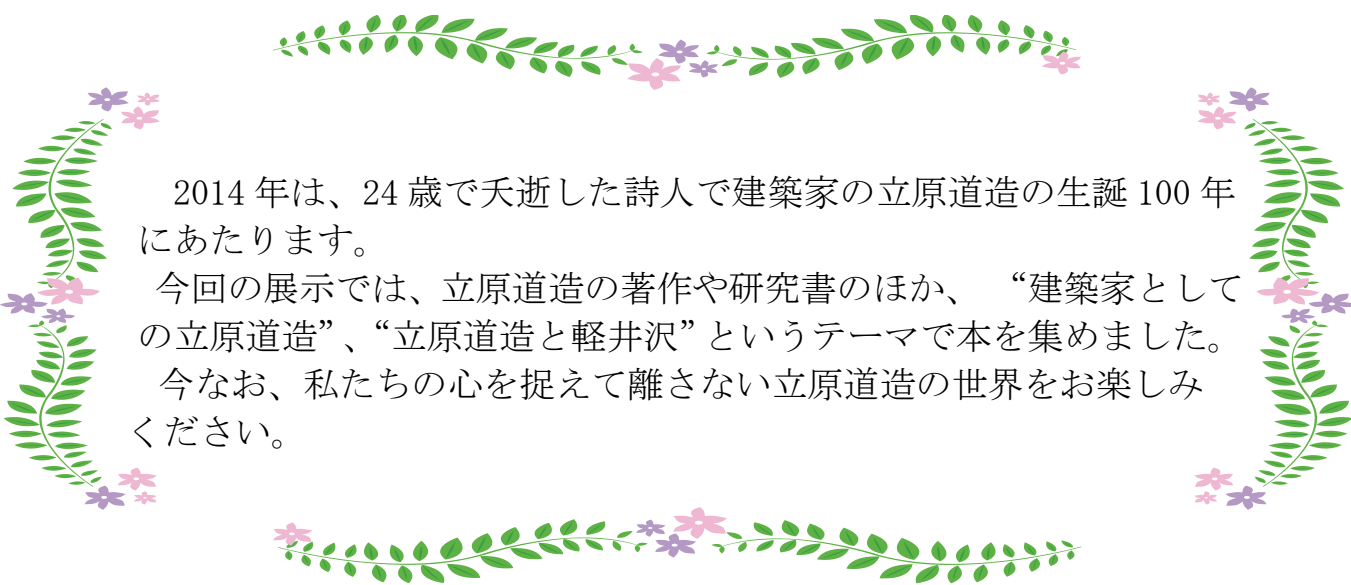
立原道造

展示期間 平成26年9月19日(金)-11月19日(水)

大阪市立中央図書館
地下1階 文学コーナー図書展示

リストより一部抜粋して展示しています

大阪市西区北堀江 4-3-2 06-6539-3303
<http://www.oml.city.osaka.lg.jp/>



2014 年は、24 歳で夭逝した詩人で建築家の立原道造の生誕 100 年にあたります。

今回の展示では、立原道造の著作や研究書のほか、“建築家としての立原道造”、“立原道造と軽井沢”というテーマで本を集めました。今なお、私たちの心を捉えて離さない立原道造の世界をお楽しみください。

立原道造

たちはらみちぞう

[1914—1939]

詩人。大正 3 年 7 月 30 日、東京生まれ。旧制一高を経て、1937 年（昭和 12）東京帝国大学建築科を卒業。初め前田夕暮主宰の『詩歌』に自由律短歌を発表したが、三好達治の四行詩に触発されて詩作に転じ、ついで堀辰雄（たつお）、室生犀星（むろうさいせい）に師事、津村信夫（のぶお）や丸山薫、リルケ、『新古今和歌集』などの詩風を摂取しながら、繊細な詩語を音楽的に構成した独自の十四行詩型（ソネット）を創出した。1934 年、初めて信州追分に滞在、この地の風光を愛し、以後多くの詩の背景としている。堀辰雄らの『四季』の同人となり、『コギト』などにも作品を発表したが、昭和 14 年 3 月 29 日、結核性肋膜炎（ろくまく）炎のため 24 歳で夭折（ようせつ）した。丸山薫は「エスプリ清くして抒情（じょじょう）に典雅に新声あふれたるは、譬（たと）へば神がしばしこの竹の青きを吹いてその余韻を永（とこし）へに耳にのこし給うたかの感がある」と哀悼した。詩集に『萱草（わすれぐさ）に寄す』『暁と夕の詩』（1937）があり、没後、堀辰雄により『優しき歌』（1947）が刊行された。全集は四度刊行されている。第 1 回中原中也賞受賞。

< 商用データベース「Japan Knowledge ジャパンナレッジ 日本大百科全書（ニッポニカ）」 > より

（参照 2014-09-05） >